

**無償労働の貨幣評価の調査研究**  
**<報告書>**

平成 21 年 3 月

内閣府 経済社会総合研究所

## はじめに

本レポートは、平成 20 年度に三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社が内閣府経済社会総合研究所の委託調査として実施した「無償労働の貨幣評価の調査研究」の成果の一部として日本における無償労働の貨幣評価の推計結果をとりまとめたものである。

人々の時間使用において無償労働の占める比率は非常に高い。また、無償労働は第三者による代替が可能（第三者基準＝ヒル基準を満たす）であるため生産の境界内の活動として定義することが可能だが、市場を介さずに行われる無償労働については、国民経済計算体系（SNA）においては記録されていない。

このため、欧米諸国では、SNA とは別に中枢体系との結びつきを保ちながら、特定の社会的関心分野について、中枢体系に過大な負担を負わせたり、その役立ちを損ねたりすることなしに、国民経済計算の分析能力を弾力的に拡張することをねらいとしたサテライト勘定として、無償労働の貨幣評価額を推計して市場経済活動と比較可能な形にし、GDP と比較する等の試みが行われている。

内閣府でも、「世界女性会議（1995 年）」で数量的測定が課題として取り上げられたことを受け、家事労働やボランティア活動等の無償労働を GDP と比較することなどを目的として、平成 9 年、平成 10 年において、1981 年から 1996 年までの 5 年ごと 4 時点について、社会生活基本調査に基づく無償労働の貨幣評価額を推計した。

本調査研究は無償労働推計の基礎統計である「社会生活基本調査結果」の平成 18 年版が公表されたことから、最新の社会生活基本調査のデータを用いて無償労働の貨幣評価額の推計を行った。

本調査研究を実施するにあたっては、有吉範敏下関市立大学経済学部教授を座長とする「『無償労働の貨幣評価の調査研究』研究会」を開催し、調査全般に対してアドバイスを頂いた。委員会の場にとどまらず、調査過程全般を通じて委員から貴重なアドバイスや資料を数多く頂いた。ここで改めて深謝する次第である。本調査研究の成果が、無償労働把握のための基礎資料として広く活用されれば幸いである。

内閣府経済社会総合研究所

無償労働の貨幣評価の調査研究  
研究会参加者名簿

〔委員〕

阿部 正浩	獨協大学経済学部 教授
○有吉 範敏	下関市立大学経済学部 教授
作間 逸雄	専修大学経済学部 教授
佐藤 勢津子	統計開発機構 理事
浜田 浩児	独立行政法人労働政策研究・研修機構 労働政策研究所 副所長
牧野 好洋	静岡産業大学経営学部 准教授
水落 正明	三重大学人文学部 准教授

(以上、50音順、敬称略、○は座長)

〔オブザーバー〕

佐藤 哲彰	総務省統計局統計調査部 統計専門官
-------	-------------------

〔事務局〕

<内閣府経済社会総合研究所 国民経済計算部>

大脇 広樹	国民経済計算部長
長谷川秀司	企画調査課長
二上 唯夫	国民生産課長
三井 康正	地域・特定勘定課長
両角機恵子	地域・特定勘定課
櫻本 健	企画調査課
及川 芳仁	地域・特定勘定課
小川 航	地域・特定勘定課
佐々木真之介	地域・特定勘定課

<三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 経済・社会政策部>

横山 重宏	主任研究員
大野 泰資	主任研究員
片岡 剛士	主任研究員
小林 庸平	研究員

# ◆◆ 目 次 ◆◆

<b>第 1 章 我が国の無償労働の貨幣評価の推計方法</b> .....	1
1. 無償労働の範囲及び貨幣評価の方法 .....	1
2. 推計内容.....	4
<b>第 2 章 我が国の無償労働の貨幣評価額(プリコード方式)</b> .....	5
1. 無償労働の貨幣評価額と名目 GDP 比率.....	5
2. 男女別の無償労働の貨幣評価額 .....	6
3. 活動別の無償労働の貨幣評価額 .....	7
4. 2006 年時点の無償労働の貨幣評価額 (活動種別・性別) .....	8
5. 活動種別・属性別にみた無償労働評価額、無償労働時間.....	9
6. 一人当たり無償労働の貨幣評価額、無償労働時間 .....	12
7. 活動種別・属性別にみた一人当たりの無償労働評価額.....	13
8. 性別・就業形態別・配偶関係別の一人当たり貨幣評価額.....	15
9. 2001 年から 2006 年にかけての無償労働評価額の変化.....	16
10. 無償労働と有償労働 (仕事) との比較.....	22
11. 都道府県別の無償労働の貨幣評価額.....	24
<b>第 3 章 我が国の無償労働の貨幣評価額(アフターコード方式)</b> .....	28
1. アフターコード方式での無償労働の貨幣評価額.....	28
2. 無償労働の中での移動.....	32
3. 通勤時間を考慮した賃金単価を利用した無償労働の貨幣評価 .....	32
<b>第 4 章 時間利用調査と無償労働に関する貨幣評価の状況の国際比較</b> .....	34
1. 各国に対する無償労働の貨幣評価に関するアンケートの概要 .....	34
2. アンケート回答結果の詳細.....	37
3. <参考>アンケート調査票 (和文) .....	49
<b>第 5 章 無償労働 SAM の構築について</b> .....	51
1. 無償労働 SAM 構築方法 .....	51
2. SNA 体系と SNA 産業連関表の概念相違に関する整理.....	51
3. 生産勘定の分割.....	53
4. 従業員数の推計.....	67
5. 別表の作成 .....	69
6. 無償労働 SAM を用いたシミュレーション分析.....	76
<b>参考資料 1 我が国の無償労働の貨幣評価にあたっての基礎統計</b> .....	81
1. 活動時間.....	81

2. 賃金（時間当たり賃金） .....	85
3. アフターコード方式での RC-S 法の際の対応職種 .....	88
4. 人口 .....	89
<b>補論 無償労働の中での移動について</b> .....	90
無償労働の中での付随輸送と送迎輸送 .....	90
（参考）無償労働の貨幣評価における通勤時間の取り扱い .....	90
<b>参考資料2 諸外国での時間利用調査を基にした無償労働の貨幣評価事例</b> .....	92
1. アメリカの事例 .....	93
2. フィンランドとドイツの比較事例 .....	102
<b>参考資料3 わが国の無償労働の貨幣評価の詳細(2001年、2006年)</b> .....	139